



CHAPTER

3

育てる

社会福祉法人 親愛福祉会

養成校ない離島の採用手法

島内島外の人財を保育士へ

人材紹介ありきからの脱却  
資格取得支援を採用手段へ

国境の島——対馬。日本と韓国の間

位置する、九州最北端の島である。人口

約3万人。島内には公立含めて14の保育

施設があるが、保育士養成校はない。そ

んな対馬で「資格取得支援」を始めた法

人がある。親愛福祉会だ。安田理事長は

採用手法を模索していた。「人材紹介会

社からの紹介は一度もありません。登録

求職者の意識は島外へ向いていたよう

です。また、島内での転職は、地域の目

中で鞍替えするのをリスクに感じる人もいるのかもしれないね」島ならではの採用の難しさを感じる中、資格取得支援を知り導入を決めた。

**立ち止まっていた資格挑戦  
支援を提示され心を決めた**

支援第1号に選ばれた大部さん。幼い頃から保育士に憧れ、島外の保育の専門学校に進学したものの、一身上の都合によりやむなく中退。しかし、保育職を諦めきれず、中退後は大分県の保育園で勤務した。その後、親の希望もあってUターン就職を決め、対馬へ。実は、大部さんは親愛こども園の元園児だ。当時の連絡ノートを見たり、親から話を聞いたりする中で、「ここには自分の思い描く保育がある」と、親愛福祉会を選んだ。保育士資格については、採用面接時から取得意思を伝えていた。しかし、勉強が苦手はどう勉強すればいいかわからない。やる気の維持も難しい。気づけば入職から2年半が経っていた。資格取得を迷い始めた時に提示された資格取得支援。「するし

かない！」と大部さんは挑戦を決めた。

**保育職希望の無資格者へ  
希望ある職場として訴求を**

現在、ココキャリア・アカデミーをオンラインで受講している大部さん。「知識が増え、『もっと学びたい』という気持ちが増えました。授業は分かりやすく丁寧で生徒に合わせてくれるので、この支援を受けてよかったとすごく思います！」と話す。安田理事長は今までの違いや手応えを感じているという。「この支援は、段階的なカリキュラムや定期的な報告書

インタビューを受けた人

社会福祉法人 親愛福祉会  
理事長

安田 親男

Yasuda Chikao

2010年、先代から引き継ぎ、理事長に就任。対馬で生まれ育ち、島外の大学を卒業後に対馬に戻り、児童クラブ等で勤務。現在、こども園副園長を兼任。



○保育士候補者

大部 優璃 乃

Daibu Yurino

高校から島外で就学・就職し、Uターン就職で親愛福祉会へ入職。現在は、資格取得を目指しながら、以上児保育の補助と重度脳性麻痺の障害児保育を看護師と連携して担当。



CORPORATE PROFILE



## 社会福祉法人 親愛福祉会

取材園：幼保連携型認定こども園 親愛こども園

長崎県対馬市厳原町宮谷 69-4

法人設立年月：1978年12月

ホームページ：http://www.shin-ai-kids.com/

認定こども園、放課後児童クラブ、児童センターを運営。こども園では音楽活動に力を入れており、子どもたちのマーチングは、島内で行われるイベントでいつも大人気！